いばらきネットモニター
「いばらき幸福度指標」に関するアンケート結果

1　調査目的

本県では令和 8 年 3 月に、4 年間の県政運営の基本方針である「第 3 次茨城県総合計画～『新しい茨城』への挑戦～」を策定しました。「いばらき幸福度指標」は、その基本理念「活力があり、県民が日本一幸せな県」の実現に向けて、今まで抽象的な概念に留まっていた幸福を「見える化」することを目的として、第 2 次茨城県総合計画より導入したものです。

このアンケートは、「いばらき幸福度指標」の認知度や皆様が考える幸福観を把握するために実施しました。

2　結果の概要

・「いばらき幸福度指標」について、「知っている」、「名前を聞いたことがあるが内容はよくわからない」の合計は 28.6％になったほか、本指標による本県の全国順位の認知度も 7.4％に留まった。

・「いばらき幸福度指標」を知ったきっかけとしては、「広報誌・パンフレット等」が最も多く 40.2％を占め、次いで県ホームページが 29.1％を占めた。

・「いばらき幸福度指標」による本県の 2025 年度の全国順位（第 13 位）については、「高いと感じた」人が 32.2％と最も多いが、「低いと感じた」と「妥当だと感じた」の合計は 36.6％とそれを上回った。

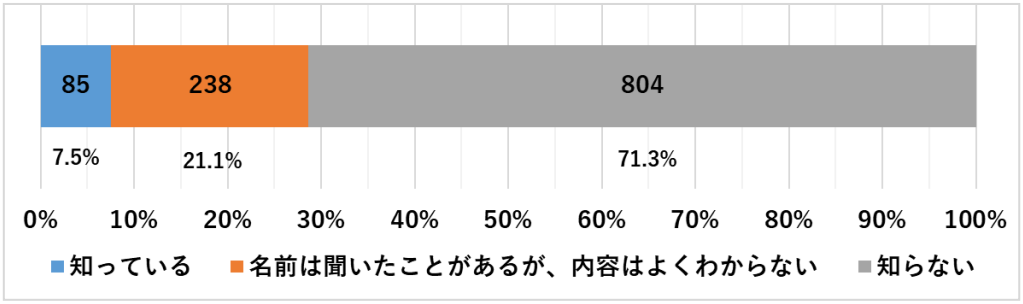
・幸福かどうかを判断する際に重視する事項としては、「健康状況」と答えた人が 64.1％と最も多く、次いで「家計の状況（所得・消費）」が 63.3％となった。

・第 3 次茨城県総合計画における「いばらき幸福度指標」に関する項目の中では、幸福かどうかを判断する幸福として、以下の項目が最も多い結果となった。
「新しい豊かさ」……可処分所得の大きさ
「新しい安心安全」…健康寿命の長さ
「新しい人財育成」…基礎学力の高さ
「新しい夢・希望」…教養・娯楽サービスに使う金額の大きさ

・県総合計画の効果的な周知・広報手段については、SNS の活用や県広報紙「ひばり」の活用のほか、公共の場所での広告掲載や、小中学校での広報、市町村のイベントとの連携など、地道な広報手段が重要であるとの意見が多かった。

【問１】（「いばらき幸福度指標」の認知度）

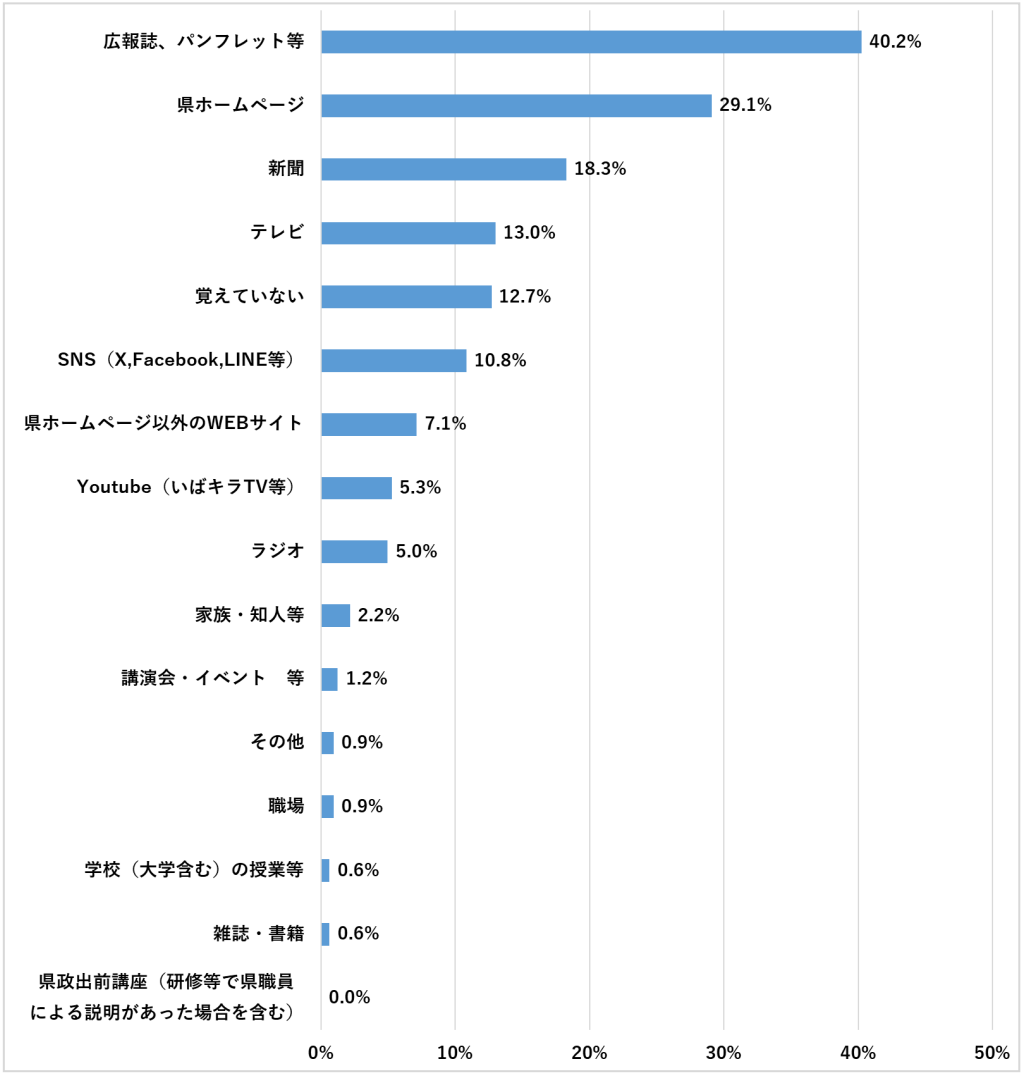
あなたは、「いばらき幸福度指標」を知っていますか。次の中から当てはまるものを１つ選んでください。（n=1127）



「知らない」が 804 人（71.3%）と最も多く、「名前は聞いたことがあるが、内容はよくわからない」は 238 人（21.1%）に、「知っている」は 85 人（7.5%）に留まった。

【問２】（いばらき幸福度指標を知ったきっかけ）

「いばらき幸福度指標」を知った（または名前を聞いた）きっかけは何ですか。次の中から、あてはまるものを全て選んでください。（n=323）

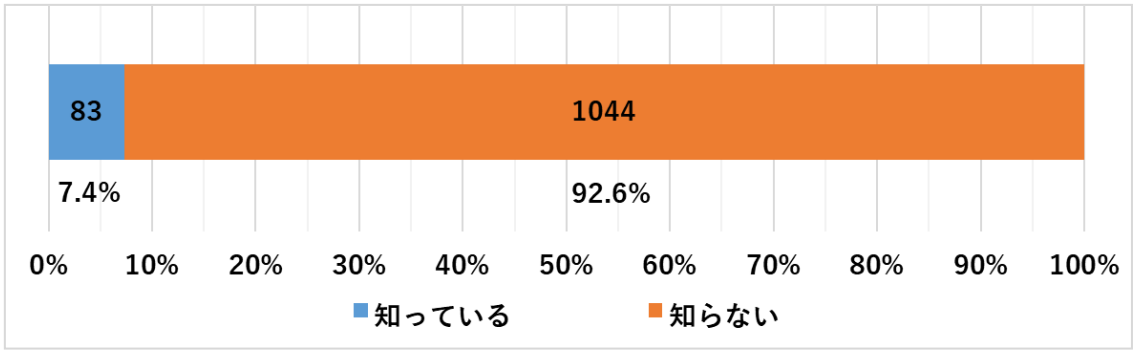


「広報誌、パンフレット等」で知った人が 40.2%（130 人）と最も多く、次いで「県ホームページ」が 29.1%（94 人）、「新聞」が 18.3%（59 人）であった。

【問３】（「いばらき幸福度指標」における本県の全国順位の認知度）

県では、「いばらき幸福度指標」による全国順位を算出することで、これまでの政策の成果や課題の明確化を図っています。

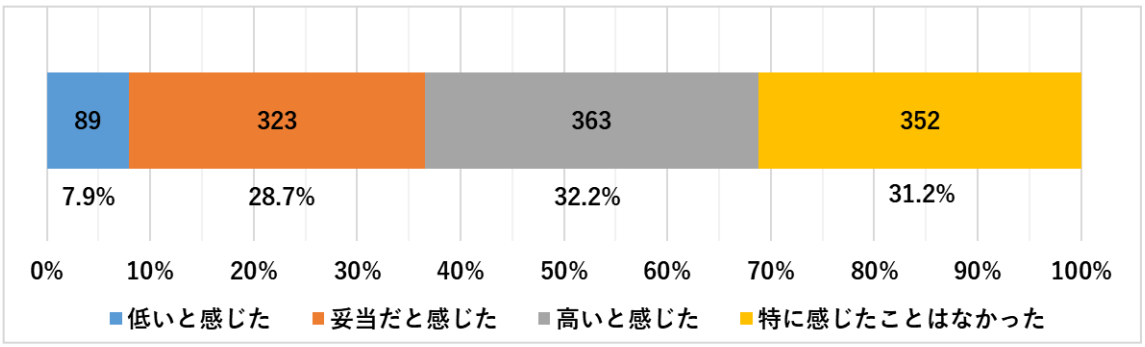
あなたは、「いばらき幸福度指標」による、本県の 2025 年度の全国順位が第 13 位となったことを知っていますか。次の中から当てはまるものを１つ選んでください。(n=1,127)



「知らない」が 1044 人（92.6%）と大半を占め、「知っている」は 83 人（7.4%）に留まった。

【問４】（本県の「いばらき幸福度指標」における全国順位に対する意見）

あなたは、「いばらき幸福度指標」による、本県の 2025 年度の全国順位を聞いたときどのように感じましたか。次の中から当てはまるものを１つ選んでください。　(n=1,127)



「高いと感じた」が 363 人（32.2%）と最も多く、次いで「特に感じたことはなかった」が 352 人（31.2%）、「妥当だと感じた」が 323 人（28.7%）となった。「低いと感じた」は 89 人（7.9%）に留まった。

【問５】（本県の「いばらき幸福度指標」における全国順位に対する意見の理由）
問４において選択した理由について、記述欄に記載してください（250 字以内）。(n=1127)

選択した理由について、次のような意見をいただいた（抜粋）。

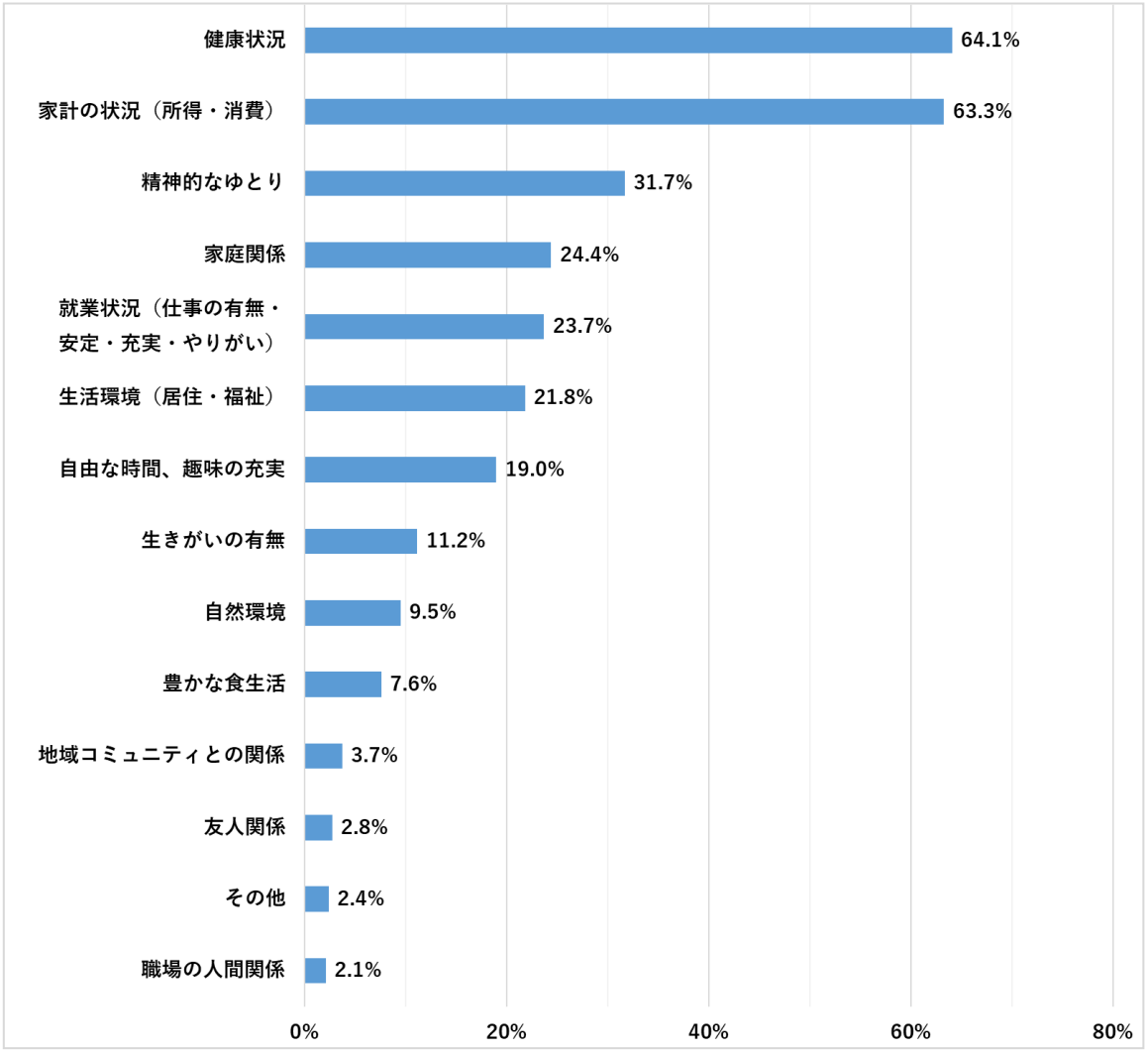
【低いと感じた理由】
・生活環境は良いし、米・野菜・くだもの・肉類など食料品は生産量も多く安く入手できて住みやすい。可住面積も広く、近住率も高い。可処分所得も多く、持ち家率も高く、満足度はもっと高くてよいと思う。
・関東という立地で特別不便もなく、土地的にもポテンシャル的にも余裕があるのでもうちょっと上の順位だと思った。
・自然豊かで、都心にも近く、食べ物も美味しく住みやすいので、もっと高いと思った。
・茨城県は気候も良く暮らしやすいと思うので、もう少し上位でもいいと思った。
・美味しいものがたくさんあり、不便なく明るくて広く、庭のある家に住めるのでとても水戸を気に入っている。南の方はもっと都会へのアクセスも良いので、茨城の魅力はもっと高いと思う。

【妥当だと感じた理由】
・都心から近く、農業や水産業も盛んで、交通の便もよく、治安も悪くないため、茨城県民の幸福度は高い方であると感じている。よって順位は妥当ではないか。
・住みやすく良いところだが、インフラや仕事面では課題も多く、順位は妥当だと思う。
・暮らしやすさを感じているが、交通安全には脅威を感じていることから、妥当に思う。
・自分自身が特に不幸を感じることなく生活しているので、この順位は妥当と感じた。
・魅力度ランキングでは最下位層だが、実際はもっと魅力的な県だと思っていたので、13 位は妥当だと思う。

【高いと感じた理由】
・なんとなく低いと思っていたので、13 位は高いと感じた。
・魅力度ランキングから想像される順位よりも高い順位であったため。
・県全体が均等に暮らしやすいわけではなく、市町村による差が大きいと思う。私の住む地域には、医療機関が少なく、公共交通機関も限られているため、車がないと生活しづらいが、医療や交通などが充実した地域もあり、そのような市が県全体の順位を押し上げているのではないかと思う。
・全国津々浦々を知っているわけではないため評価のしようが無いが、感覚的には全国の中位くらいが妥当だと思う。したがって、全国順位が第 13 位というのは「やや高い」と思った。
・不法就労者数や交通事故件数などで低評価を受けることが多いことから、13 位という順位は高いと思った。

【問６】（ご自身が幸福かどうかを判断する事項）

あなたが、幸福かどうかを判断する際に重視する事項は何ですか。当てはまるものを最大３つまで選んでください。（n=1,127）



「健康状況」が 64.1％（722 人）と最も多く、次いで「家計の状況（所得・消費）」が 63.3％（713 人）、「精神的なゆとり」が 31.7％（357 人）となった。

なお、その他については、次のような意見をいただいた。

【「その他」の内容】

・生命、安全、財産が守られていること。
・困ったときに助けてくれる社会であること
・生活に必要なものを自給自足できること

【問７】（ご自身が考える幸福な状態）

あなたが考える幸福な状態について、問６において選択した内容を参考に、記述欄に具体的に記載してください（200 字程度）。（n=1,127）

本設問については、次のような意見を頂いた（抜粋）。

【健康状況に関する意見】

・心身とも健康で、日々安心して穏やかに暮らせることが、私にとっての幸福だと思う。
・健康が全てではないが、健康を失えば全てを失うと常々感じている。
・年をとるにつれて衰えを感じることが多々あるので、健康第一と考える。
・健康であることは基本であり、健康でないとお金がたくさんあっても辛いと思う。

【家計の状況（所得・消費）に関する意見】

・生活していく上で就業状況、家計の状況が占める割合は大きいと思う。収入が安定してやりがいなどがあれば消費にも繋がっていくし充実感やゆとりも生まれてくる。
・美味しい物をお金の心配なく美味しく食べられる状態が幸福だと思う。
・経済的にゆとりがあると、趣味に使える自由な時間が生まれると思う。
・普通の生活をして普通に仕事をしてお金の心配をせずにいられることが重要だと思う。

【精神的なゆとり】

・世間の情勢に、翻弄されることなく、穏やかな暮らしができることが重要だと思う。
・ストレスがない、あるいは、ストレスを感じずに生活できる状態が幸せだと思う。
・いつも切羽詰まって気持ちでいて、幸せは感じない。
・子育てのため、日々慌ただしく過ごしていることから、精神的なゆとりを重視する。

【その他】

・家族の中で争いごとがないこと。
・みんなでルールやマナーを守って暮らし、犯罪や問題ごともなく、将来的にも安心して暮らせるような状態。

【問８】（幸福かどうかを判断する際に重視すること①）

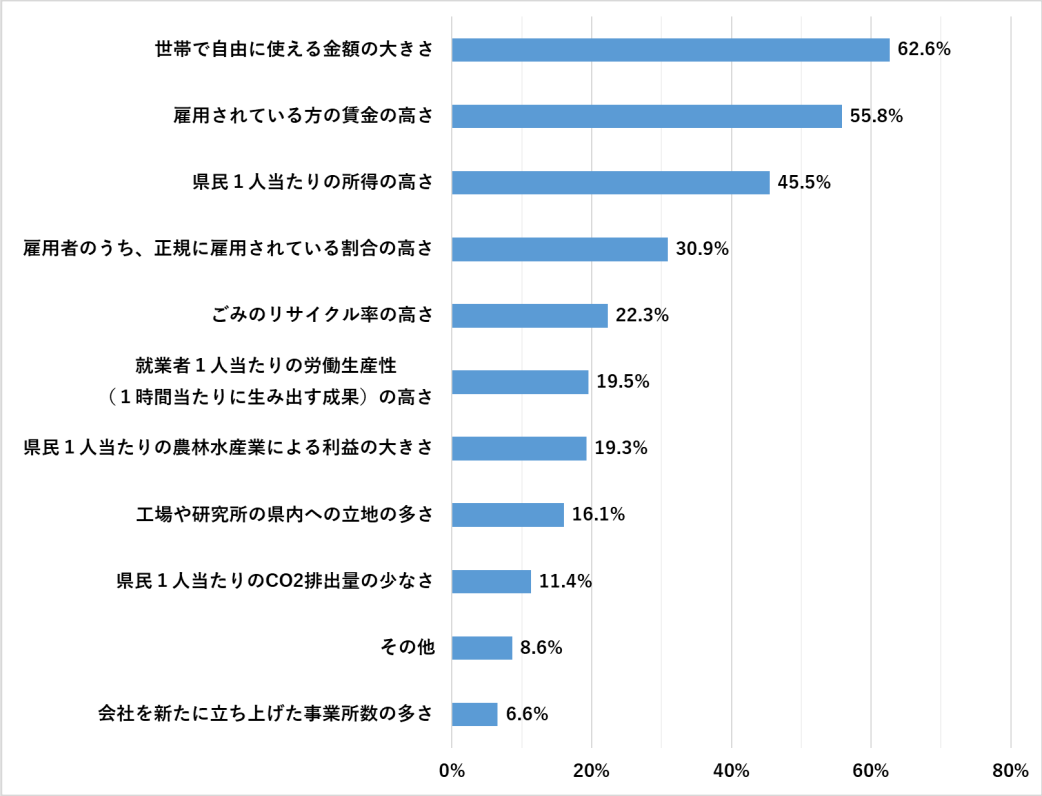
県総合計画では、「県民幸福度 No.1」の実現に向けて、４つのチャレンジ（※２）により政策を推進しています。ここからは、「いばらき幸福度指標」について、それぞれのチャレンジごとにお伺いします。

（※２）県総合計画の４つのチャレンジについて

県では基本理念の「活力があり、県民が日本一幸せな県」の実現に向け、４つのチャレンジを推進しています。

チャレンジ	概要
新しい豊かさ	力強い産業の創出とゆとりある暮らしを育み、新しい豊かさを目指します。
新しい安心安全	医療、福祉、治安、防災など県民の命を守る生活基盤を築きます。
新しい人財育成	茨城の未来をつくる「人財」を育て、日本一子どもを産み育てやすい県を目指します。
新しい夢・希望	将来にわたって夢や希望を描ける県とするため、観光創生や魅力向上を図ります。

県総合計画の「新しい豊かさ」のチャレンジに関する次の項目の中から、あなたが幸福かどうかを判断する際に重視するものを、全て選んでください。　（n=1,127）



「世帯で自由に使える金額の大きさ」が 62.6%（706 人）と最も多く、次いで「雇用されている方の賃金の高さ」が 55.8%（629 人）となった。

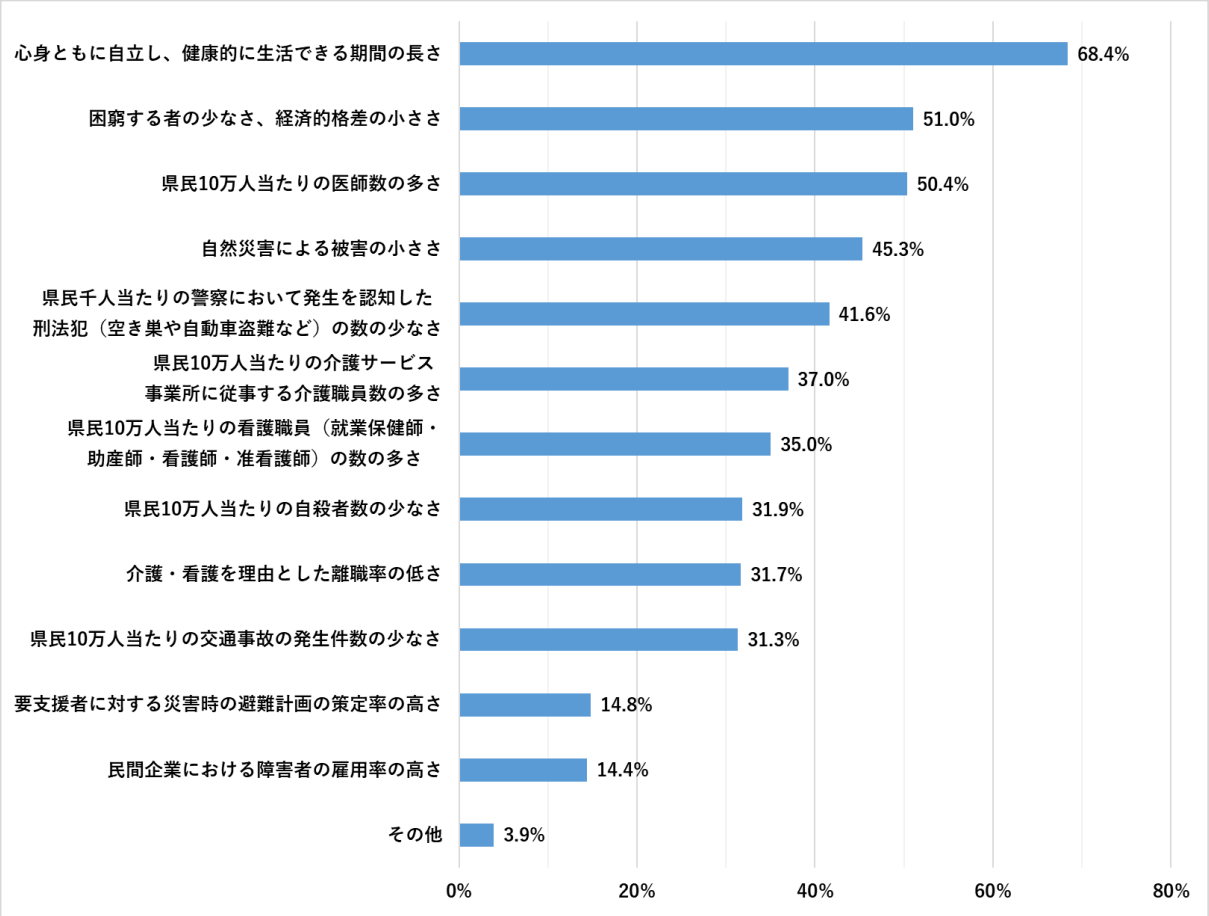
なお、「その他」については次のような意見をいただいた。

【「その他」の内容】

・可処分時間の長さ
・休暇の取得日数の多さ
・時差出勤、時短勤務、週４以下の勤務などといった柔軟な雇用
・「週５フルタイム」にとらわれない正社員雇用

【問９】（幸福かどうかを判断する際に重視すること②）

県総合計画の「新しい安心安全」のチャレンジに関する次の項目の中から、あなたが幸福かどうかを判断する際に重視するものを、全て選んでください。　（n=1,127）



「心身ともに自立し、健康的に生活できる期間の長さ」が 68.4%（771 人）と最も多く、次いで、「困窮する者の少なさ、経済的格差の少なさ」が 51.0%（575 人）、「県民 10 万人当たりの医師数の多さ」50.4%（568 人）となった。

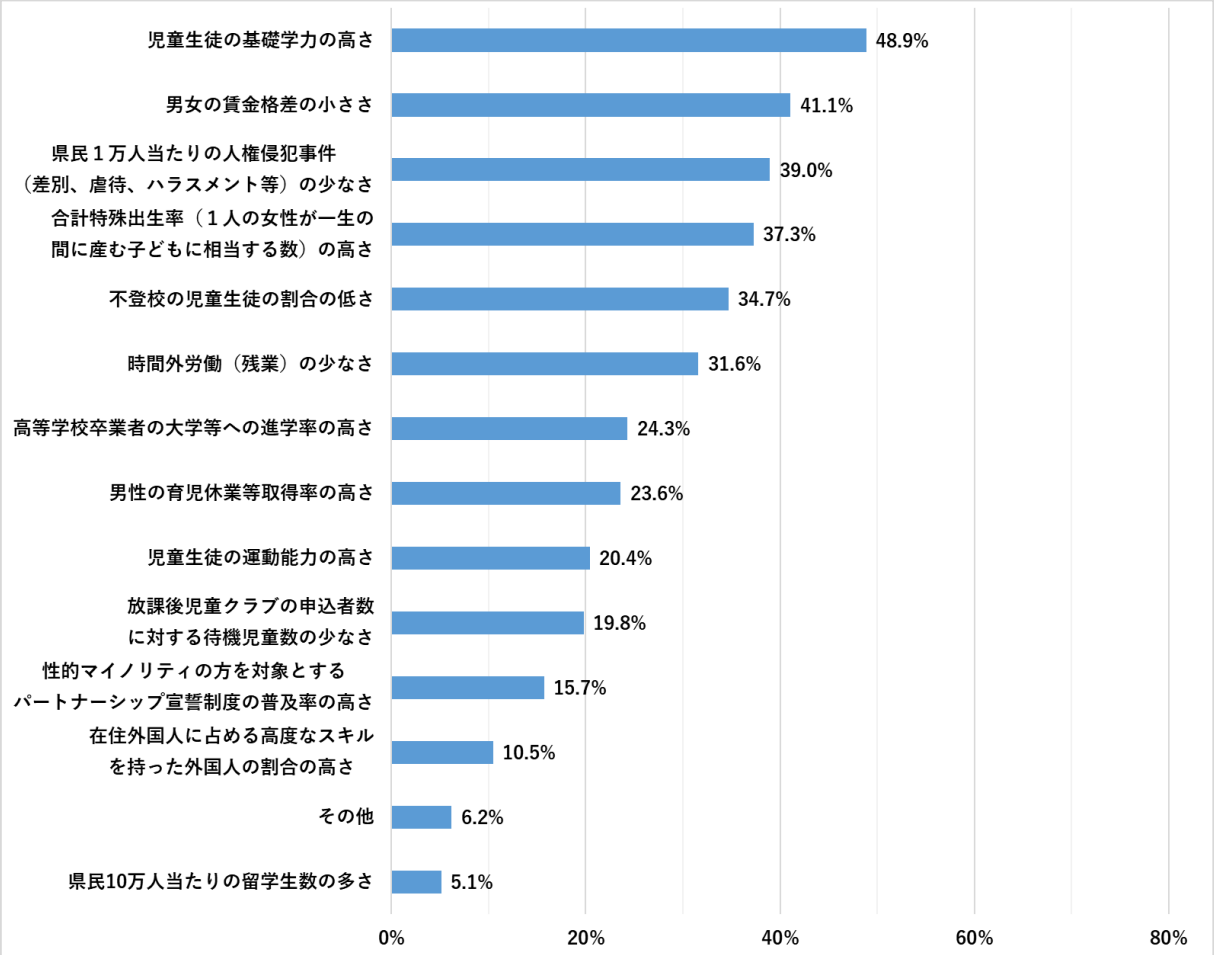
なお、「その他」については、次のような意見を頂いた。

【「その他」の内容】

・全県民の避難計画が策定されていること。
・犯罪検挙率の高さ。
・外国人の不法滞在・不法就労のない社会であること。

【問 10】（幸福かどうかを判断する際に重視すること③）

県総合計画の「新しい人財育成」のチャレンジに関する次の項目の中から、あなたが幸福かどうかを判断する際に重視するものを、全て選んでください。　（n=1,127）



「児童生徒の基礎学力の高さ」が 48.9%（551 人）と最も多く、次いで「男女の賃金格差の小ささ」が 41.1%（463 人）、「県民 1 万人当たりの人権侵犯件数（差別、虐待、ハラスメント等）の少なさ」が 39.0%（439 人）となった。

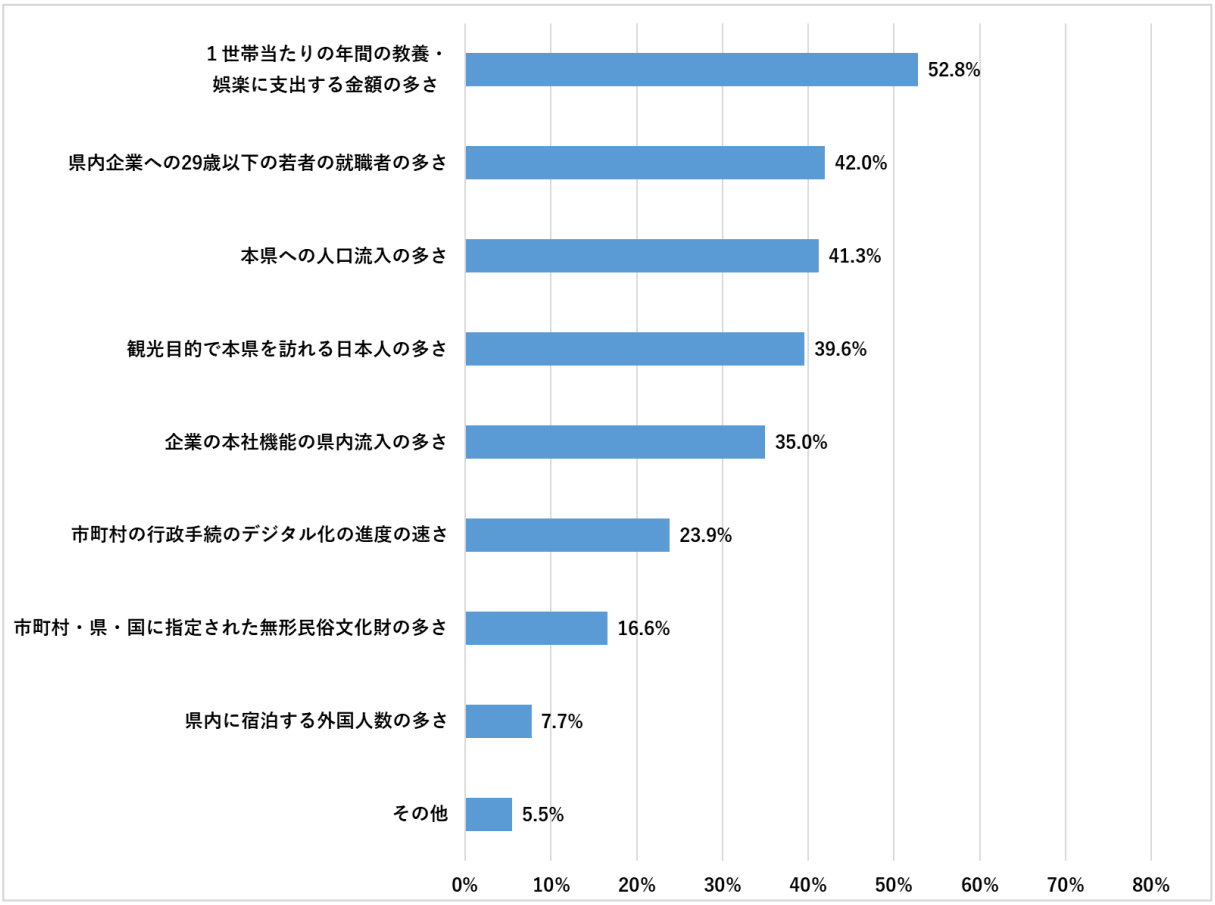
なお、「その他」については、次のような意見をいただいた。

【「その他」の内容】

・教員の収入の高さ
・放課後児童クラブの職員に占める専門職の割合の大きさ
・男性の家事参加率の高さ

【問 11】（幸福かどうかを判断する際に重視すること④）

県総合計画の「新しい夢・希望」のチャレンジに関する次の項目から、あなたが幸福かどうかを判断する際に重視するものを、全て選んでください。　（n=1,127）



「1 世帯当たりの年間の教養・娯楽に支出する金額の多さ」が 52.8%（595 人）と最も多く、次いで「県内企業への 29 歳以下の若者の就職者の多さ」が 42.0%（473 人）、「本県への人口流入の多さ」が 41.3%（465 人）となった。

【「その他」の内容】

・若者の賃金水準の高さ
・ある程度大きな競技場やライブ会場などがあること
・音楽や芸術、美術など文化的充実
・特許の多さ

【問 12】（県総合計画の周知・広報手段）

今後、「いばらき幸福度指標」を活用し、県総合計画を広く周知・広報していく手段として、どのような方法が効果的であると考えますか。記述欄にご自由に記載してください（250字以内）。（n=582）

本設問については、次のような意見をいただいた。

【SNS やインターネット（デジタルメディア）の活用】
・まずは SNS 広告を増やすことではないか。
・YouTube など動画サイトの広告であれば見ざるを得ないので効果的ではないか。

【マスメディア・既存メディア（広報誌・テレビ等）の活用】
・どの世代にも分かる新聞・テレビ等のマスメディアや、広報誌の活用が重要だと思う。
・ほとんどの県民は知らないと思うので、県の広報誌『ひばり』を県内全世帯に配布すると効果的だと思う。

【生活の場でのアピール】
・図書館などの公共施設やスーパーなどの生活の場にポスターなどを掲示する。
・医療機関や調剤薬局のデジタルサイネージを活用する。

【その他】
・カミナリなどの、県ゆかりのユーチューバーやインフルエンサーに紹介してもらう。
・東京アプリの真似をして、いばらきアプリを作成し、そこに総合計画を掲載する。
・義務教育期間の子どもたちに授業のなかで伝えていく。子どもの頃から触れていると大人になっても受け入れやすいと思う。
・単に順位を伝えるだけではなく、茨城の強み・弱みをイラストやグラフで分かりやすく伝えると良いと思う。
・わかりやすいチラシやホームページを作り、市町村のイベントと絡めたり、企業とコラボする。地域福祉との連携も良いと思う。

3　アンケート結果を受け、今後の事業展開・アンケートの活用方法等について

「いばらき幸福度指標」の認知度や県民の価値観に係る参考とするとともに、本指標等を活用した広報等により、県総合計画に掲げる基本理念や本県の将来像、政策の方向性等について広く県民との共有を図っていく。

4　調査の概要

（1）調査形態

調 査 時 期：2026 年 7 月 1 日 ～ 2026 年 7 月 14 日

調 査 方 法：インターネット（アンケート専用フォームへの入力）による回答

モ ニ タ ー 数：1,694 名

回　収　率：66.5%

回答者の属性：以下の通り

		人数（人）	割合（%）
全体（n）		1,127	100.0
地域別	県北	100	8.9
	県央	365	32.4
	鹿行	47	4.2
	県南	367	32.6
	県西	81	7.2
	県外	167	14.8
性別	男性	497	44.1
	女性	630	55.9
年齢別	16～19 歳	4	0.4
	20～29 歳	39	3.5
	30～39 歳	140	12.4
	40～49 歳	265	23.5
	50～59 歳	322	28.6
	60～69 歳	231	20.5
	70 歳以上	126	11.2
職業別	自営業	81	7.2
	会社員	434	38.5
	団体職員	55	4.9
	公務員	53	4.7
	主婦・主夫	226	20.1
	学生	13	1.2
	無職	142	12.6
	その他	123	10.9

（2）担当課

茨城県政策企画部計画推進課（総合計画グループ）

電話：029-301-2523　E-mail：kikaku2@pref.ibaraki.lg.jp

（注）割合を百分率で表示する場合は、小数点第 2 位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の割合の合計と全体を示す数値が一致しないことがある。
また、図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。